

| 項目 | 確認事項 | 届出内容 |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本情報 | 大学等名1(代表大学等) | 亜細亜大学 |
| | 大学等名1(代表大学等)※カナ | アジアダイガク |
| | 大学等名1(代表大学等)学校所在地 | 東京都 |
| | 大学等名1(代表大学等)学校種別 | 私立大学 |
| | 大学等名2(連携大学等) | |
| | 大学等名2(連携大学等)学校所在地 | |
| | 大学等名2(連携大学等)学校種別 | |
| | 科目名 | 海外ビジネスインターンシップ(AUCP) |
| | 学部・研究科等名 | 経営学部経営学科、経済学部経済学科、法学部法律学科、国際関係学部国際関係学科・多文化コミュニケーション学科 |
| | 担当教職員名・役職 | アジア夢カレッジ運営委員長(アジア研究所教授)西澤 正樹 アジア夢カレッジ運営副委員長(国際関係学部教授)栗原 孝 国際交流センター国際交流課調査役 寺尾 浩一 |
| 受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数 | 6 | |
| 受入企業等数 | 6 | |
| 受入企業等名 | 大連漫歩広告有限公司、瑞詩酒店大連、みずほ銀行大連支店、JETRO大連事務所、在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所、富士電機大連有限公司 | |
| インターンシップの分類 | 1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ | |
| 上記以外のインターンシップの分類(記述欄) | | |
| 要素① | 1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。 | 1.はい |
| | 1-2.該当する就業体験 | 1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) |
| | 1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄) | |
| | 1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 本学の学生を受け入れていただく企業様にとってどのような業務を担当させていただき、その効果がどのようなものであるのかを事前説明しています。その中から、課題解決に結びつける業務内容もあります。これはインターンシップをお願いする大学の基本的な姿勢だと存じております。 |
| 要素② | 2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。 | 1.はい |
| | 2-2.該当するインターンシップの内容 | 1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している |
| | 2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄) | |
| | 2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄) | 2年次 |
| | 2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄) | 4単位 |
| | 2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 平成29年度は、12月中旬から明け年1月中旬の5週間実施しました。製造業、サービス業を問わず、インターンシップを実施しました。また、事前事後だけではなく、学生たちが留学している期間も含め、教職員が現地に赴き、ルームメイトである(中国では長期間共同生活が可能なのは本学の学生だけ)中国人大学と一緒にキャリア研修を行い、グローバル人材に必要な能力を気づかせた上で、企業でのインターンシップを実施してもらっている。 |
| 要素③ | 3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。 | 1.はい |
| | 3-2-1.該当する事前学習の内容 | 1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している |
| | 3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄) | |
| | 3-2-2.該当する事後学習の内容 | 1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている |
| | 3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄) | |

| | | |
|-----|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 3-2-3.該当するモニタリング | 1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している |
| | 3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄) | |
| | 3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄) | マナー研修、動機づけ、企業業界研究、異文化研修、社会人による授業、教職員一帯によるビジネスマナー研修、 |
| | 3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄) | 企業人を招いた成果発表会、インターンシップの成果確認(本学独自の成果確認方法に基づく・平成24年度文部科学省社会経済に貢献するグローバル人材育成制度採択理由の一つの理由)とその後のキャリア(就職等)に結びつける研修。その際にプレゼンテーション能力向上研修をおこなっている。 |
| | 3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄) | 学生の留学・インターンシップ期間中には、教職員が現地に3~4回程現地に出張し、キャリア研修の実施だけでなく、学生たちとの対話を通じつつ、インターン受け入れ機関との様々な交渉を行っている。 |
| 要素④ | 4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。 | 1.はい |
| | 4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み | 1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している |
| | 4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄) | |
| | 4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 平成24年度文部科学省経済社会を牽引するグローバル人材育成事業でも高評価を得た「Before-After Sheet」を用いている。これは、インターンシップ生を受け入れてくれた企業担当者の評価、学生たちの自己評価を比較し、その後のキャリア形成に活用している。担当者はこの分野でJASSOからの依頼を受け、JASSO主催のセミナーで講演を行っている。 |
| 要素⑤ | 5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。 | 1.はい |
| | 5-2.該当する実施期間 | 1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している |
| | 5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄) | 5週間 |
| | 5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) | 本プログラム参加者は、入学後より1年半のゼミでインターンシップの心構え、ビジネスマナー研修、文書作成などの授業を受けるだけでなく、留学できる学生は、約1年間の中国語の集中講義を受け、その間で中国語検定3級に受かることを義務づけている。 |
| | 5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) | ある企業のみ、5週間を半分に分けてインターンシップを行っている。しかしながら、この方法は2社の間で、業務分担等を含め学生指導方法を常に改善するという好循環を生んでいる。 |
| | 5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄) | |
| | 5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 中国大連では、本学の取り組みは、政府機関の協力は元より、本学の人材育成本心を理解してくれる、大企業と密接につながり、15周年を迎えました。産学連携で人材育成を行う、モデルケースとして様々な場面で高い評価を受けている。 |
| 要素⑥ | 6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。 | 1.はい |
| | 6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容 | 1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している |
| | 6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄) | |

| | | |
|--------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 社会人基礎能力に基づいたBefore-After Sheetを利用し、企業から学生評価をもらい、それに基づき、学生の指導を行うだけでなく、企業には要望書に改善点を記入してもらい、それを次年度に生かしている。 |
| | 7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL | https://www.asia-u.ac.jp/international/aucp/ |
| 問い合わせ先 | 大学等名 | 亜細亜大学 |
| | 担当部署名 | 国際交流センター国際交流課 |
| | 担当者役職名 | 国際交流課調査役 |
| | 担当者氏名 | 寺尾 浩一 |
| | 電話番号 | 0422-36-4089 |
| | メールアドレス | kkcia@asia-u.ac.jp |